

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は町史編さん委員の佐藤仁志さん（豊間根・七〇）です。

喜伝治は、屋号伝蔵屋福士重七の長男として安政三年（一八五六）、大沢村に生まれた。若者になった喜伝治は漁師になり、沿岸において漁労に励んだ。

付けて大沢に帰ってきた。その後、彼は漁船を所有し、知識や拓、大謀網を建てた。明治三十

喜伝治が少年のころ、山田湾沖において彼の乗った鯉船が漂流した時、陸方向を知らせたのが鶴の鳥であった。

下北半島大謀網漁場開拓者

福士喜伝治

五年、網は大漁に次ぐ大漁を重ね、五月には鮪漁獲の万本祝をするほどの豊漁だった。喜伝治の評判は広まり、明治四十年には大畑町佐助川漁場を探索し漁場を選定、網を建て大漁の成果を上げた。漁師たちは、喜伝治の大謀網に対する情熱、観察力に感嘆した。彼は魚道の探索選定に長け、漁場の開拓に卓越した能力



大畑町にある大漁記念碑「八大龍王」。裏面に「佐助川は最良無比の漁場、福士喜伝治の選定による」旨刻まれている＝鈴木弘一著「炉辺 大沢冬の夜語り」より＝

祈願して行った。山林火災によって神社が焼失したことを知った喜伝治は心を痛め、友人の大沢の木工棟梁清作屋の松太郎の協力を得、明治四十五年、神社を建立し奉納した。また、菩提寺大沢の南陽寺に大般若経六百巻を寄贈した。心を満たした喜伝治は、その後も下北半島での大謀網漁の拡張に努めていたが、大正三年八月、惜しまれながら波瀾万丈の生涯を終えた。五十八歳であった。

技術を生かし漁業に励んだ。彼はいつの日か大謀になることが夢であった。ある時、彼は山田港に出入りする商船から下北半島の地における漁業の情報を得た。明治三十年（四十一歳）、喜伝治は下北半島の地に赴き東通村において、海底の地形や潮の流れ、魚道、沿岸の地形などについて漁場を探索し東通村尻労に漁場を開拓、大謀網を建てた。明治三十

1月10日は「110番の日」

緊急通報は慌てず正確に



一月十日は「一一〇番の日」です。この番号は、事件・事故が起きたときの緊急通報の専用ダイヤル。警察に通報する際は、▼何が あったか▼いつ▼どこで▼どんな様子か——を慌てず、正確にお伝えください。
緊急を要しない相談は「#九一一〇」の利用を
警察では、緊急を要しない相談を受け付ける総合相談電話として、全国共通の専用ダイヤル「#九一一〇」を設置しています。行方不明者の捜索、運転免許に関する問い合わせなど、緊急時以外のことで相談する際にご利用ください。
▽問い合わせ 宮古警察署 山田交番（☎82-2155）へどうぞ。